

第4回 栗原市総合計画審議会 会議録

日 時 令和3年4月21日（水） 午後2時30分～午後5時00分

場 所 栗原市役所本庁舎 4階 委員会室

出席者 委員13名

鈴木康夫会長、千葉節朗副会長、吉田浩委員、千葉みどり委員
佐藤光樹委員、阿部智恵委員、佐藤則明委員、佐藤博昭委員
黒澤亮委員、高橋郁夫委員、松平きらら委員、渡邊登委員、
菅原文彦委員

(事務局)

三塚企画部長、鈴木企画部次長、佐藤企画課長、菅原企画課長補佐、
菅原企画政策係長、佐藤主査

1 任命書交付

選出団体の代表者変更により新たに下記1名を委員に任命した。

- ・佐藤光樹委員（東北労働金庫築館支店長）

2 開会

3 挨拶

○栗原市総合計画審議会 鈴木康夫会長

いよいよ来年度からの5年間の後期基本計画の策定に入る。コロナは今後も
当たり前の状態として続くという理解のもと、今後の在り方や活動の仕方を作
っていかなくてはならない。

その前提となる、最も大事な市民の考え方をまとめた結果について本日説明
される。市長の考え方と市民の考え方をうまく連動させながら後期基本計画を
作っていかねばならないと理解している。

限られた時間ではあるが、大変重要な会議だと思うので、よろしくお願
いしたい。

4 案件

- (1) 第2次栗原市総合計画後期基本計画策定に関する市民アンケート調査結
果について

【資料1-1について事務局説明】

(会長)

何か御意見はないか。

(委員)

一般的に共通して目に付くところは、中高年の市民の満足度が低く、一方、なぜかは分からないが19歳以下の市民の満足度が高い。次世代を担う若い人たちの満足度が高いことは喜ばしいことだが、中高年の人たちというのは、別の見方をすると市民税所得割や固定資産税などの市税を中心的に担ってくださっている世代だと思う。その世代の満足度が他の世代と比べて低いということは、重く受け止める必要があると思う。

そういったところを前回の調査と比べてみることによって、栗原市では、若いときは満足度が高いが、年を重ねるにしたがって段々満足度が落ちていくという傾向によるものなのか、あるいは別の要因によるものなのか、といったことが明らかになると思う。

市民の総合計画に対する認知度が低いということであれば、満足度が低いと答えている世代の方々は、市が行っている行政の内容に対して、本当に満足していないのか、あるいは十分に伝わっていないために満足感が感じられないのか。もしかすると19歳以下の方々へは、学校教育の中でしっかりと市の取り組みが伝わっているのかもしれない。そのように認知度との関連も調べてみると、もう少しいろいろな方向性が見えてくると思う。

(事務局)

19歳以下の若い世代で満足度が高い施策や、子育て世代で満足度が高い施策がある。例えば、18歳までの医療費助成を行っていることから、直接恩恵を受けている子育て世代の満足度が高く、そうでない年代の満足度が低くなっている。

また、委員ご指摘のとおり、項目によっては「分からない」という回答が25%から30%に達しているものもある。

満足度が「低い」「やや低い」と答えた人は、ほとんどの項目である一定の割合に収まっているのに対し、「わからない」という回答の割合が大幅に増えた項目は、やはり満足度が低い傾向にあると思われるため、認知度についても良く調べて分析する必要があると思う。

【資料1-2について事務局説明】

(会長)

「Ⅱ-1-②子どもの保健・医療・福祉の充実」は市民の満足度も優先度も共に高い。一方で「Ⅰ-2-①文化芸術活動への支援」は満足度が一番低い。

(委員)

文化活動について、子どもたちは学校を通じていろいろな芸術文化団体を呼ぶことはできるが、30代～50代は普段は仕事をしており、ほとんど文化・芸術に触れる機会がないと思う。

年齢が上の方向けの講演やイベントが多いため、内容についても吟味する必要がある。

(委員)

実際、市で行っている施策に対して認知されていないと思われる回答が多く見受けられる。

例えば、Ⅰ-1-③に「核家族だけでなく、多世代同居の家庭にも目を向けてほしい」という意見があるが、住宅関係で、多世代同居の家族に対する助成制度がすでにあるが、それが認知されていないと思う。

ほかにも「地域おこし協力隊の活動がもう少し分かるようにすべき」との意見もあるが、こちらは、SNSはもちろん、地域おこし協力隊のかわら版が配布されているなど、取り組んではいるが市民に認識されていないという部分が多いと感じる。

また、市のホームページについて、去年は「シェアリングタウン」で検索することができたが、今年に入ってから同じように検索しても引っかからず、取り組みの大枠は良いが、運用面で残念なところもあった。

(委員)

企業誘致は、この4年間はこのんびりしていたように思う。

(委員)

医療の部分が弱いと感じる。

資料25ページは栗原中央病院に対する率直な意見だと思う。子育て世代の評価は良いが、年配の方は生活に不安があるところが率直な意見に出ていると思うので、医療の部分を改善していかないと総合的に「いいまち」にはならないと感じる。

(2) 第2次栗原市総合計画前期基本計画施策評価（内部評価）について

【資料2-1、2-4及び2-2【将来像I】について事務局説明】

(会長)

将来像Iについて御意見はあるか。

(委員)

庁内で検討した「部会」とは、「見直し部会」というひとつのところで評価したのか、それとも各担当課で自己点検して評価したのか。部会とはどういったものなのかを教えていただきたい。

(事務局)

部会は、将来像にぶら下がる各事業の担当課の課長級職員をメンバーとして構成し、成果指標の達成状況などについて検証を行った。

将来像ごとに部会を設置しているため、メンバーにとってはそれぞれ担当していない事業も含まれているが、お互いに目標の達成状況等を確認し合い、評価として整理した。

(委員)

将来像ごとにひとつの部会があるのか、それともひとつの将来像の中にいくつかの部会があるのか。

(事務局)

将来像ごとにひとつの部会を構成している。その中に所管する事業の担当課長が入っている。

(委員)

見直しの方向性については、今後、国の動きなどを反映していく予定はあるか。

例えば、「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォース」や「住生活基本計画」などは、今年に入って動きが大きくなっている。後期基本計画において、それらの動きを認識せずに見直しを行うと、次の5年間はそれらを含まない計画になってしまうため、きちんと取り入れていただきたい。

また、市有遊休地の分譲宅地整備について、「見直しの方向性」で「今後は、不動産事業者や住宅メーカー等に売却することとし、市としての整備は行わない」としているが、例えば岩手県紫波町のエコハウスの分譲は全国から視察が

来ており、そういったいい取り組みが近くにあるので、参考にしてはどうかと思う。住宅メーカーに売却するのもいいが、おそらく市の土地を住宅メーカーに売ると、数億円というお金が東京や大阪などのメーカーに流れ、市には何も残らなくなると思うので、その辺も考慮してほしい。

(事務局)

当然のことながら所管課で最新の情報を収集した上で計画に反映させていく。

「現状と課題」については、前期基本計画策定時の状況を記載したものであるため、改めて現在の「現状と課題」を捉え直した上で、後期基本計画の策定を進める必要があると考えている。

【資料 2-2 【将来像Ⅱ】 について事務局説明】

(会長)

将来像Ⅱについて御意見はあるか。

(意見なし)

【資料 2-2 【将来像Ⅲ】 について事務局説明】

(会長)

将来像Ⅲについて御意見はあるか。

(委員)

社会福祉協議会では、「お茶っこ会」や世代間交流を行っているが、このコロナ禍でそういった交流ができなくなっているので、うまく事業を進めて交流を図れるようにしたい。

(委員)

Ⅲ-3-①、②、③の施策は、優先度が高いにも関わらず市民の満足度が低い『重点改善分野』であるのに、内部評価結果ではそれぞれ「高」「高」「中」であり、見直しについては、「(ほぼ)現状のままでよい」や「多少の見直しが必要」となっている。これでは「このままで良い」と受け取られかねない。

また、この分野の自由記述では、読むのも辛くなるような表現の意見が並んでおり、市民の意識と内部評価結果の間にかかなりのギャップがあると感じられる。

資料 2-3 で言うと、Ⅲ-3-① (P 50) は『施策に対する効果 (総合評

価)』が「高」、『見直しの必要性』が「(ほぼ)現状のままで良い」、Ⅲ-3-②(P52)は『施策に対する効果(総合評価)』が「高」、『見直しの必要性』が「多少の見直しが必要」、Ⅲ-3-③(P54)は『施策に対する効果(総合評価)』が「中」、『見直しの必要性』が「(ほぼ)現状のままで良い」で、非常にちぐはぐな感じがして、評価の揺らぎがあるように思われる。この評価の揺らぎがないようにしなければいけないのではないか。

インプット(～しました。)とアウトプット(効果)があるが、効果の最たるものとして、住民の満足度はもっと重視されるべきではないか。この評価だと、市民から相当御意見が寄せられても、あまり大幅な見直しは行わない、というスタンスになってしまう。達成度についても、重要である施策の60%の達成度と、重要でない施策の60%の達成度では重みが全く違う。命に係わるⅢ-3については、今すぐどうのこうのという話ではないが、見直す余地があるかどうかをもう一度検討した方が良い。

(事務局)

内部評価については、計画策定時に指標として設定したものに対して評価を行ってきたが、市民の満足度と乖離がある結果になったと認識している。そのような乖離がある部分をどうすれば解決できるのか、ということの後期基本計画の策定の中で検討していくべきだと考えている。

(会長)

この審議会のミッションは、市民アンケートの意見と庁内の内部評価の意見とを踏まえて、それらをどのようにして後期基本計画の策定に繋げていくかという道標のようなものを提案することだと思う。

【資料2-2【将来像Ⅳ】について事務局説明】

(会長)

将来像Ⅳについて御意見はあるか。

(委員)

林業後継者の育成支援の取り組みはこれまで聞いたことがないが、これからやるということか。内部評価の効果は「中」となっているが、私は「低」だと思う。

今年度、栗駒高原森林組合に新人が8名入った。これまでにないことである。そのうち4名が栗原市外から来た方。定住戦略室等との連携により頑張った効果が出てきたと思う。中には祖父の実家があったという方もいたが、全く

何のつながりもなく、ただ「林業をやってみたい」という思いで来ている。我々は組合をあげて「緑の雇用」に取り組んでおり、また、国の支援制度などの情報を集め、それらを利用して後継者の育成を推進していくため、市の応援をお願いしたい。

令和元年度から森林環境譲与税による事業として、栗原市で私有林の状況を把握するための意向調査を実施している。これは県内でもほとんど行っていないが、栗原市では一早く取り組んでおり、私は非常に期待している。

これまでは林業は産業ではないと言われてきたが、少しずつ産業としての林業が育ってきていると思う。

5年前に移住した方に、「なぜ栗原市に来たのか」と聞いたところ、普段から隣近所の方々が声をかけてくれて、これは都会には無い良さだ、と話された。これからも田舎の良さを守り、面白い地域にしたいと思う。

(委員)

いろいろなイベントを企画したり運営したりしているが、それが観光につながっていることが市民に分かれていないことが悲しい。

コロナの影響で観光は非常に厳しい状況にあるが、総合計画の中で大きい目で見えていただき、アフターコロナはもちろんだが、現状のウィズコロナの中で何か観光を支えるような取り組みがあれば様々な面で助かる。

(会長)

将来像Ⅳは『施策に対する効果（総合評価）』が「中」や「低」の施策が目立つ。これから皆さんの意見を伺いながら、しっかりした計画を作っていかなければならないと思っている。

【資料2-2 【将来像Ⅴ】について事務局説明】

(会長)

将来像Ⅴについて御意見はあるか。

(委員)

ここでも市民アンケートと内部評価の結果に乖離があると感じた。

市ウェブサイトに関して、施策の内部評価では「(ほぼ)現状のままで良い」となっているが、必要な情報を調べようと思い、市のウェブサイトで検索しても検索に引っかからないことがある。

【資料 2 - 2 【放射能重点プロジェクト】について事務局説明】

(委員)

農林畜産物の風評被害について、現在、薪やしいたけの原木の出荷規制があるが、これは県内一律なのか、それとも市の調査結果により単独で規制しているのか。

(事務局)

市で独自に測定器を導入し、持ち込まれた農林畜産物の放射線量測定を行い、結果を公表している。

(3) まちづくり若者ワークショップについて

【資料 3 について事務局説明】

(会長)

この件について御意見はあるか。

(意見なし)

(会長)

今後、この若者ワークショップの結果や、先ほどの庁内の内部評価結果、市民アンケート等を踏まえながら、後期基本計画素案を作っていく運びになると思う。夏場に出来上がった原案を審議する会議を開催する。

(委員)

市民アンケート結果はかなりの労力で集約されたと思う。

アンケートの中の総合計画の周知度に関する質問で「計画の内容を知っている」と答えた人の割合は2.2%となっているが、この部分が本来とても重要だと思う。「市民が創る くらしたい栗原」は市民が中心になって取り組んでいく総合計画だと思う。

内部評価結果と市民アンケート結果の乖離が出ているところがあるため、それらの乖離幅を極力無くしていった形で後期計画を策定していただきたい。

5 その他

(事務局)

次回の会議日程について、7月中旬頃に委員皆様の日程を確認させていただいた上で、開催日を決定していく。審議内容は後期基本計画（案）を予定している。

6 閉会（午後5時00分）

(副会長)

本日の各委員の意見を踏まえ、特に評価に関する整合性など関連項目を精査しながら後期基本計画の作成に入っていただきたい。